☆市政の目標☆

1. 憲法と市民憲章を行政の中に生かして人間優先の施策を進める
2. 改善と創造に徹して、躍動する施策を進める
3. 的確な展望に基づいて、未来につながる施策を進める
4. 自治の認識を深めて、市民参加の施策を進める

第165号
53年4月

広報やわた

発行 八幡市役所
八幡市八幡葛蒲池12
TEL (075) 983—1111
編集 市民部広報課

市の現勢（53年3月末）

人口	59,052人
（男	29,625人）
（女	29,427人）
世帯	17,450世帯
面積	23.51 ㎡

基本構想の実現へ第一歩

未来の八幡市のあるべき姿をえがいた「八幡市基本構想」は、三月の定例市議会で決定をみました。八幡市と橋本の両駅前の整備は、この構想のめざす住みよい整ったまちづくりのカナメとなる大きな事業ですが、そのひとつ八幡市駅前の広場づくりは、市側の施行とともに事業に着手できる運びとなり、現在、先行取得していた用地の上にある建物の除去作業が進んでいます。（写真…近景は臨時のバスターミナル、右遠景が除去の進む建物）

市長の日記

67

山中 末治
八幡市長

保育所・幼稚園の入園や小学校・中学校の入学の時期を迎えると、各園、各校が同じ日の同じ時刻に式を開始されるから全部の式にはなかなかとても参加できないので残念です。「昔は良かったなあ、全部に出席ができたのに」と思う。

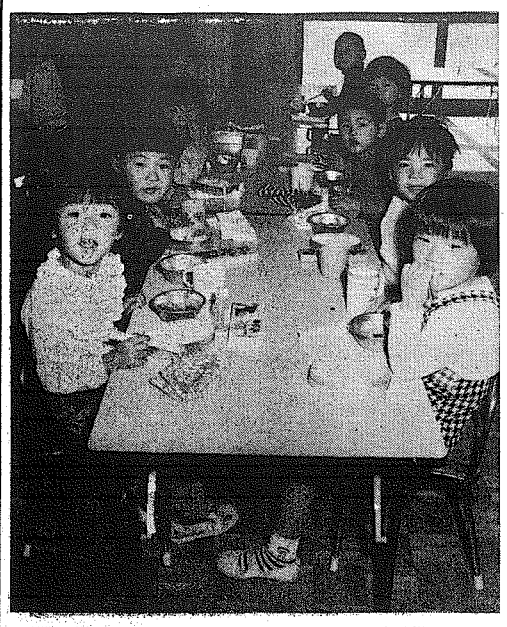
私も混行状態二十二回目の入園、入学式を迎えることになり、その間には色々な想い出がある。元気な子が一人やっとチョコチョコと走って感慨の涙に暮れ、そこで大胆にもオシッコをやってのけた。入園式の進行中である。今でもその男の子を良く知っていて時々まちで見かけ、そのあいだも一トンの貨物車を運転して「やあ！」と声をかけてくれた。これからもうまくやってほしいものだ。

私は運想をするのが好きな性格なので、次から次へと想いをめぐらす時がある。入園、入学式などと祝福に充ちた瞬間だったあと、やがてこの気分も既強へ。この時の学校整備をどうして持ち続けるかということは待望としても切なることである。行政としては学校整備を除外することは絶対ないが、やはりこれからは学校の施設を除いて行政的整理、撤去、何だろう、現代の色彩内容や教育内容の充実とともに充ちた瞬間だったあと、やがてこの気分も既強へ。この時の学校整備をどうして持ち続けるかということは待望としても切なることである。行政としては学校整備を除外することは絶対ないが、やはりこれからは学校の施設を除いて行政的整理、撤去、何だろう、現代の色彩内容や教育内容の充実とともに充ちた瞬間だったあと、やがてこの気分も既強へ。この時の学校整備をどうして持ち続けるかということは待望としても切なることである。行政としては学校整備を除外することは絶対ないが、やはりこれからは学校の施設を除いて行政的整理、撤去、何だろう、現代の色彩内容や教育内容の充実

行政としては、ご動的に安定な部分を最大限に食止めるよう考え、考えなければならない。そこで今の市政・地方自治体の力量で太刀打ちにならないものに復元力を与えることができることに安定なのである。

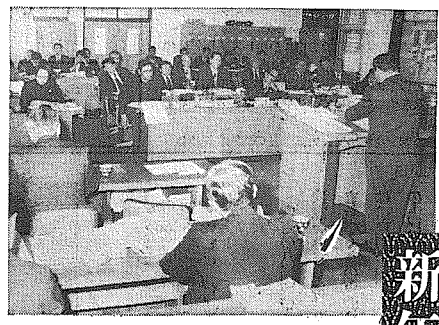
総額99億8千万円

福祉経費は40%の増加



働く親とその子のために、保育園2園を開設、合計15園に

予算を重点的に配分



新年度予算を審議する市議会

新年度予算を可決

決算を認定・補正予算も成立

昭和五十三年第一回定例市議会は三月十一日に開会されました。

市長から提案のあった総額九十九億八千七百十一万六千円にのぼる五十三年度の一般会計と特別会計の予算案、ならびにこれに関係する条例案は、会期中各常任委員会に付託され、慎重な審議ののち、可決されました。

そのほか、昨年の十二月議会で決算特別委員会に付託されていた五十一年度の各会計の決算（水道会計は認定済）が認定されました。

また、五十二年度一般会計および特別会計の補正予算と五十三年度一般会計補正予算などが可決されたほか、西村新助役の選任と、吉田収入役の選任（再任）に同意されました。また、「まちづくり」の指針となる「八幡市基本構想」も可決されました。

議案の審議を終えた市議会は、三月三十日に六名の議員による一般質問を行い、全日程を終了しました。

一般会計 76億4千万円

昭和五十三年度の歳入歳出予算は、中心となる一般会計が七十六億四千百四十万四千円、これに七つの特別会計を加えた額は九十九億八千七百十一万六千円です。

このほかに、一般会計と小中学校の整備を主とした債務負担（山城学校建設公社の日本住宅公団による立替建設など）による事業費があり、これを含めた実質的な予算規模は一般会計で八十五億七千七百三十六万九千円、会計では百九十九億三千三百万二千円となります。

歳入歳出予算の対前年度増加率は、一般会計で八・九％、全会計で一一・三％となっています。公共事業費の大幅増という全国的な増加傾向のなかで、本市の増加率が比較的低位にとどまったのは、ひとつは、庁舎の建設費が約五億三千万円減少したこと、もうひとつには、繰延事業については、おむね公共事業費の伸びに応じた算定をしたことなどによります。

予算を見込みましたが、街路・道路・農業用施設等の新規予定事業の補助事業の具体化が見込み得ない部分が出たことが主な理由です。これら未計上の補助事業については、今後、補助の採択に努めます。これら未計上の補助事業については、補助決定後に補正予算を組むことにしたためです。さらに、京都府の予算が骨格的予算であり、府の予算が確定次第、その裏付けとなる予算の編成は、まず「八幡市基本構想」をその基礎にしました。この構想に盛り込まれている「市の理念」と「市民の理念」を基にして、構想に示された計画の大綱に添って可能な限りその具体化と事業の推進をはかりました。また、陳情における要望や意見、提案要望や各種団体、市民の各要望などを十分検討し、事業の重点的な選択を行うとともに、寄りしに盛り込まれた期限の実施を図りました。

建設事業に37億円

暮らしの施設を整備

一般会計中の建設事業費は、二十三億四千八百四十九万七千円で、その構成比は三〇・七％で、債務負担による事業を加えると三十二億八千四百三十八万二千円が建設事業の総額です。全会計中の建設事業は債務負担による事業を加えて、三十六億七千五百八十八万五千円となっています。

一般会計の主な事業のうち、民生、衛生、労働、農林、土木、消防、教育などの各面にわたって市民の日常の暮らしのために直接充当する福祉経費は三十二億二千三百五十一万円で、予算中の四二・一％を占めています。

管理的経費は10億8千万円

広報や諮計画、地方債償還などの特定の目的を持った経費は九億九千九百十八万五千円、構成比一三・一％で、内部事務を内容とする管理的経費は十億八千二十四万千円で、同一四・七％です。

とくに市制に伴う生涯保護などの市における業務、保育所二園の開設、保健婦の国民健康保険特別会計からの組替えなどの必然的な増加要素のほか、福祉施策充実のための新規事業費が前年度三九・六％と大幅に増加したのが一方針が反映し、福祉経費が前年度

保育所 15園で千七百人を運営費に8億6千万円

ことし四月から公立保育所二園を開園したため、市内の保育所は公立が十園、私立が五園、計十五園になりました。これにより五十三年度の保育所入所定員は前年度より百七十名増え、二千七百四十名になりました。これ、市の人口に比べて非常に高い水準となっています。反面保育所が多いと、必要経費も多くかかります。新年度の予算では保育所運営費に合計八億五千八百九十五万二千円を計上しましたが、これは前年度よりも一億七千百二十七万三千円も増加しています。

保育所の運営費については、国の負担が少ないために大幅な過負担がかかり、また園の多くが保育料の徴収基準が高いために市独自の保育料を安くしている事情があって、市の財政のなかから、多額の財源を充てています。

五十三年度でも、さらに国の保育料徴収基準の引き上げが予定されていることなどから、増額しました。

この他に職員の処遇の改善はかる方針で、民間保育所への助成額として、前年度よりも二千三百二十二万三千円多い五千六百七十四万四千円を予算に計上しました。

障害児保育については、障害児の受け入れ保育園（公立含む）を現行の六園から九園に拡充します。

みその保に遊戯室 吉野保にプールを

みその保育園に遊戯室増築するために二千四百九十八万円を計上しました。また吉野保育園にプールを新設するために百四十五万円を計上しました。これとあわせ、公立の保育園にはすべてプールが設置されることになります。

乳児の個人委託助成制度を充実

六月月末現児の保育を個人に委託されている場合、月額二万円を助成していましたが、新年度から世帯の生活状況に応じて助成額を一カ月当り最低二万円、最高三万円とします。

留守家庭児の保護事業を二小で開設

共働きなどによって両親が昼間留守になる留守家庭児童を対象に行っている昼間両親留守家庭児童保護事業を新年度から八幡第二小学校でも開設するとともに、八幡こどもセンターに援護員一名を増員します。これら事業の拡充に伴う予算が計上されました。

国民健康保険

医療費を貸付

保険税率は据置く

国民健康保険に加入している人が多いので、会計に弱い立場の人が多いのでいろいろな問題があります。

医療費の増大は、国民健康保険会計の組替えなどの必然的な増加要素のほか、国民健康保険会計の組替えなどの必然的な増加要素のほか、福祉施策充実のための新規事業費が前年度三九・六％と大幅に増加したのが一方針が反映し、福祉経費が前年度

一般会計から三千五百七十七万円を繰入

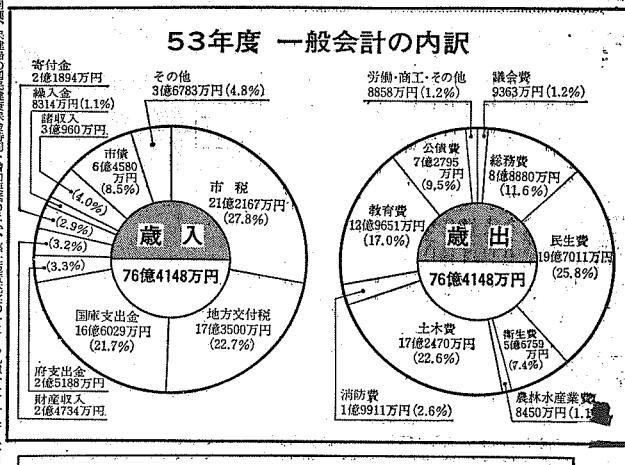
保険税率は据置くなどの措置をとりました。

国民健康保険会計に組替え

一般会計に組替え

新年度において、一般会計からの財源繰入のほか、国民健康保険事業費の負担を軽減する目的で、医療費の一部を一般会計に組替えることなどの必然的な増加要素のほか、福祉施策充実のための新規事業費が前年度三九・六％と大幅に増加したのが一方針が反映し、福祉経費が前年度

53年度 一般会計の内訳



〈会計別の予算一覧表〉

（単位万円）

会計名	本年度	前年度	比較増減
一般会計	764,148	701,958	62,190
駐車場会計	587	582	5
公共下水道事業会計	60,931	35,266	25,665
住宅改修資金等貸付事業会計	10,998	11,171	△ 173
奨学金貸付事業会計	708	709	△ 1
国民健康保険会計	91,588	81,449	10,139
農業共済事業会計	3,060	2,538	522
水道事業会計	66,692	63,526	3,166
合計	998,713	897,199	101,513

※前年度予算に比べ、伸び率は一般会計で八・九％、全会計で十一・三％です。この表には、債務負担行為による額は含みません。

生活保護費に 3億8千万円

従来は府の仕事であった生活保護事業が、昨年十月の市制施行に伴って八幡市の仕事になりました。

生活保護は、憲法第二十五条に規定されている「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」に基づき、生活に困っているすべての国民に対して保護を行い、最低限度の生活を保障するとともに、その自立を助長するものです。

この予算の内訳は、三億五千百九十九万七千円が扶助費で、三十二万五千円が、人件費などの事務費です。

扶助費は、衣食その他の日常生活の需要を満たすための生活扶助に一億二千七百十二万六千円、医療扶助に二千万円を見込んでいます。また施設事務費扶助に百二十九万六千円を計上しています。

財源は、国負担金が二億六百百二十九万九千円、公債費扶助に二千万円を見込んでいます。

修繕等に扶助する生業扶助に八万三千円、分べん等に扶助する出産扶助に二千万円を見込んでいます。

居宅に対する住宅扶助に二千六百十一万六千円、教育扶助に百四十万六千円、生業に必要な費用、技術の習得を満たすための生活扶助に一億六千四十四万円、住宅扶助に一億六千四十四万円、教育扶助に百四十万六千円、生業に必要な費用、技術の習得等に扶助する生業扶助に九千九万九千円、分べん等に扶助する出産扶助に二千万円を見込んでいます。

また施設事務費扶助に百二十九万六千円を計上しています。

財源は、国負担金が二億六百百二十九万九千円、公債費扶助に百二十九万三千円、医療扶助に二千万円を見込んでいます。

一般会計から三千五百七十七万円を繰入

保護費の一部を一般会計に組替えることなどの必然的な増加要素のほか、福祉施策充実のための新規事業費が前年度三九・六％と大幅に増加したのが一方針が反映し、福祉経費が前年度

母子家庭・父子家庭の医療費を無料化

母子家庭の児童については、これまで高校奨学資用当時児童その医療費を独自で無料としていましたが、新年度から児童の母についても無料にしました。

障害者センターを計画

保健センターの建設に伴い、母子健康センターを障害者のための施設に転用する方針で、今年度ではその施設のための経費を計上しました。共同作業所を含めた施設を定しています。

盲人用腕時計など

障害者に対する授産措置を、新年度から引き続き実施します。

障害者に対する生活用具については、テープレコーダー、盲人用腕時計、同ダイアライター、助力車椅子、同ダイアライター、盲人用腕時計、同ダイアライター、盲人用腕時計、同ダイアライター、盲人用腕時計

駅前広場の整備に着手

市内交通の基点に

市の表玄関―京阪八幡市駅前広場の整備事業が京都府の手によっていよいよ着手されることになりました。

この駅前広場の整備は、市の長年の懸案でしたが、府の都市計画事業として現在整備が進められている八幡枚方線の一部として、このほど建設省から事業認可がかっました。

この駅前につながることになる都市計画街路八幡枚方線は、このほど、駅前のすぐ東側の大谷川の架橋工事が完成しましたが、その東方、八幡木津線との交差点までは未施工となっています。

駅前広場事業に、この八幡枚方線の残工事とともに、五十二年度以降、年次計画で、進められることになったもので、市としては、五十二年度の補正予算に二千八百五十七万円、五十三年度の当初予算に二千八百五十七万円、五十四年度に二千八百五十七万円を府に対する負担金としてこの事業の今後の推進を進めることになったことに伴い、八幡市の負担分で。他は、八幡都市処理区の公共下水道の維持管理費の負担分で。他は、八幡都市処理区に要する運営費に充て計上しました。

市側の施設とともに着手されることになったこの事業は、八幡市の都市づくりのひとつの柱となるもので、事業の今後の推進が期待されます。

橋本駅前整備の青写真をつくる

八幡市駅前とともに、橋本駅前の整備も急速度で進ずる課題です。

五十三年度では、男山地区から西山地区を経て、橋本駅へ通じる街路とあわせて、駅前の整備計画をたて、早期に着手できるよう準備を進めることとしています。

なお、計画にあたっては、地区住民センターの商店街の配置なども、総合的に検討することとしています。

橋本駅前整備の青写真をつくる

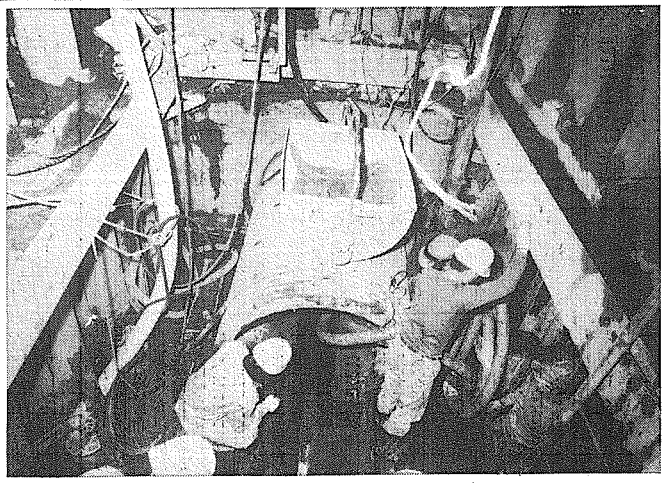
八幡市駅前とともに、橋本駅前の整備も急速度で進ずる課題です。

五十三年度では、男山地区から西山地区を経、橋本駅へ通じる街路とあわせて、駅前の整備計画をたて、早期に着手できるよう準備を進めることとしています。

なお、計画にあたっては、地区住民センターの商店街の配置なども、総合的に検討することとしています。

まず先行取得　用地を買上げ

事業は、まず、先行取得して、土地開発公社が保有している用地の買上げから始まりの。五十二年度は、その一部が実施されます。



地下10㍍、推進工法により工事が進む汚水一号管

下水道整備進む

引き続き汚水管を布設

生活用式の都市化、河川及び農業用水の清浄化など環境衛生の向上をめざす市の下水道は昨年十二月から本格的な年次に入りましたが、五十三年度には、一号汚水幹線を引き続き施行するほか、三号汚水管幹線についても着手します。

下水道事業特別会計には、六億九百三十一万二千円を計上しました。

このうち管理費に二億三千一万九千九百円を計上していますが、一千百九十一万三千円は枚方北部ポンプ場の管理運営費の負担分です。また、一億三千八百九十九万五千円は枚方北部処理水ポンプ場の管理運営費、同処理場の維持管理費の負担分で。他は、八幡都市処理区の公共下水道の維持管理に要する運営費に充て計上しました。

三号汚水管などに三億四千万円計上

建設費に三億四千三百七十九万五千円を計上しましたが、うち八幡処理分区整備費は一億三千七百万円で一号汚水幹線（八幡西山地内道路に延長六二八㍍）、三号汚水幹線（金島等橋北側を谷川横断）四十一㍍及び三号汚水幹線（八幡南四丁目地内道路）百六十㍍の工事を施工します。それぞれ推進工法で五十二年度から三カ年の継続事業として改良を進めている日口二期管渠は、新年度は延長二百五十六㍍を六ヶ月間で拡幅改良します。事業費は用地費も含めて四千五百八十五万円です。

市の中心部と男山地区北部を結ぶ都市計画街路西山中奈良線については、明日団地側から約百四㍍の区間の工事に着手するとともに未買得用地を取得します。物件補償を含めた管渠費は三億四千三百六十五万円です。

なお、西山中奈良線の公共下水道建設費は六億六千万円で、うち民生関係の工事費は、二億三千八百九十六万円を取得します。

幅員6メートルに　西山下奈良線　男山側からも着工

川口二階堂線

現在八幡市には四分団三名の消防団員がおり、防災や初期消火に重点を置き奮闘をはたしていますが男山地区には消防団がなく、また六区地区においても、給与所得者の増加により昼間消防員が不在になるケースが増えています。このような状況に対処するため、昼間でも地域にいることが多い主婦を対象とした婦人消防チームをつくり、次災予防と初期消火につとめるとともに、地域市民防組織（自主防）を購入します。そのほか、内訳は、男山地区内北センターの東側に、それぞれ一名の婦人交通指導員を配置します。

交通安全施設の整備を図るため柵三ヶ所、防護柵五ヶ所、反射鏡二十二ヶ所をそれぞれ設備します。

婦人消防チームを結成

初期消火に期待

安全な通園・通学を

婦人指導員二名増員

交通安全対策費に二千六百三万五千円を計上しました。

交通の安全を図るため、児童や生徒を交通事故から守る通園や安全教育を実施します。

交通安全施設の整備を図るため、通学路の標識百枚を設置します。

また、保育園や幼稚園児、小学校の遠足、通学時の安全確保するため、くすのき保育園西の府道・男山地区内北センターの東側に、それぞれ一名の婦人交通指導員を配置します。

交通安全施設の整備を図るため柵三ヶ所、防護柵五ヶ所、反射鏡二十二ヶ所をそれぞれ設備します。

ポンプ車を購入し常備消防力を充実

常備消防力を充実するために、普通消防ポンプ自動車一台、小型動力ポンプ積載車一台（消防団用）を購入します。そのほか、内訳は、男山地区内北センターの東側に、それぞれ一名の婦人交通指導員を配置します。

交通安全施設の整備を図るため柵三ヶ所、防護柵五ヶ所、反射鏡二十二ヶ所をそれぞれ設備します。

暮らしの下水路に

二千五百万円計上

久保田川都市下水路については、昨年度に引き続き三百四十万円の改修を行います。改修後は、幅四・三㍍、深三・五㍍、三面コンクールの水路となります。事業費は九百九十万円です。

市内各所の下水路の改良には二千五百万円を計上しました。

バスの待合所は、二カ所新設します。既設の待合所の整理費と合わせて六千万円を計上しました。

幅員6メートルに　西山下奈良線　男山側からも着工

西山下奈良線は、西山地区から男山地区を経て橋本駅へ通じる街路です。

この街路は、橋本駅前整備とあわせて、駅前の整備計画をたて、早期に着手できるよう準備を進めることとしています。

なお、計画にあたっては、地区住民センターの商店街の配置なども、総合的に検討することとしています。

橋本地区において公民館講座を開始

八幡市民センター、男山食堂有線放送センターで実施しています。

センターで実施しているこの公民館講座、新年度から橋本地区（四区公会堂）でも開設します。講座種目は、囲碁、将棋、茶道の三種です。

橋本駅前整備の青写真をつくる

八幡市駅前とともに、橋本駅前の整備も急速度で進ずる課題です。

五十三年度では、男山地区から西山地区を経、橋本駅へ通じる街路とあわせて、駅前の整備計画をたて、早期に着手できるよう準備を進めることとしています。

なお、計画にあたっては、地区住民センターの商店街の配置なども、総合的に検討することとしています。

橋本駅前整備の青写真をつくる

八幡市駅前とともに、橋本駅前の整備も急速度で進ずる課題です。

五十三年度では、男山地区から西山地区を経、橋本駅へ通じる街路とあわせて、駅前の整備計画をたて、早期に着手できるよう準備を進めることとしています。

なお、計画にあたっては、地区住民センターの商店街の配置なども、総合的に検討することとしています。

市内に散策路を設定

史跡と自然を結ぶ

自然に恵まれた美しい"まち"を考慮議し、市の特産物からだけの知り、緑と文化につつまれた史跡に親しみ市民相互のコミュニケーションを図る健全なレクリエーションとして市内散策路を設定します。この散策路は、男山とその周辺に点在する文化財をめぐる緑まちづくり行動として二千四百十万円を計上しました。

市制の施行とともに着手されたこの散策路は、八幡市の歴史と自然の風景コース、なし狩・たけのこ掘り・柿狩りなど市の特産物に恵まれた農業から田園コース、つくし・すみれなど四季の植物に親しみながら魚つり、茶摘みなどを楽しむ木津川左岸堤コースなどを設置するものです。コースにはすべて道標を設けるとともに、主な場所には案内板を設置します。

ジョッキングやハイキングコースを設定

市民の健康の保持増進をはかるうえでスポーツの普及はさまざまな意味があります。新年度では、市内各所にジョッキング（競走）コースやハイキングコース・サイクリングコースなどを設定する予定です。

また市民の憩いの場としてスイミングプールは、プールサイドに入浴場が併設されています。

松花堂管理運営に

一千四百六十万円

昨年十月にオープンした史跡松花堂の管理運営費に一千四百六十万円を計上しました。

文化財や史跡の保護については石清水八幡宮や神社寺、幅地泥炭地、飛行神社など、市内の二十カ所の文化財に説明板を設置するとともに、金島の文化財を調査し資料を作ります。

橋本地区において公民館講座を開始

八幡市民センター、男山食堂有線放送センターで実施しています。

センターで実施しているこの公民館講座、新年度から橋本地区（四区公会堂）でも開設します。講座種目は、囲碁、将棋、茶道の三種です。

市内に散策路を設定

史跡と自然を結ぶ

自然に恵まれた美しい"まち"を考慮議し、市の特産物からだけの知り、緑と文化につつまれた史跡に親しみ市民相互のコミュニケーションとして市内散策路を設定します。この散策路は、男山とその周辺に点在する文化財をめぐる緑まちづくり行動として二千四百十万円を計上しました。

市制の施行とともに着手されたこの散策路は、八幡市の歴史と自然の風景コース、なし狩・たけのこ掘り・柿狩りなど市の特産物に恵まれた農業から田園コース、つくし・すみれなど四季の植物に親しみながら魚つり、茶摘みなどを楽しむ木津川左岸堤コースなどを設置するものです。コースにはすべて道標を設けるとともに、主な場所には案内板を設置します。

ジョッキングやハイキングコースを設定

市民の健康の保持増進をはかるうえでスポーツの普及はさまざまな意味があります。新年度では、市内各所にジョッキング（競走）コースやハイキングコース・サイクリングコースなどを設定する予定です。

また市民の憩いの場としてスイミングプールは、プールサイドに入浴場が併設されています。

松花堂管理運営に

一千四百六十万円

昨年十月にオープンした史跡松花堂の管理運営費に一千四百六十万円を計上しました。

文化財や史跡の保護については石清水八幡宮や神社寺、幅地泥炭地、飛行神社など、市内の二十カ所の文化財に説明板を設置するとともに、金島の文化財を調査し資料を作ります。

橋本地区において公民館講座を開始

八幡市民センター、男山食堂有線放送センターで実施しています。

センターで実施しているこの公民館講座、新年度から橋本地区（四区公会堂）でも開設します。講座種目は、囲碁、将棋、茶道の三種です。

市内に散策路を設定

史跡と自然を結ぶ

自然に恵まれた美しい"まち"を考慮議し、市の特産物からだけの知り、緑と文化につつまれた史跡に親しみ市民相互のコミュニケーションとして市内散策路を設定します。この散策路は、男山とその周辺に点在する文化財をめぐる緑まちづくり行動として二千四百十万円を計上しました。

市制の施行とともに着手されたこの散策路は、八幡市の歴史と自然の風景コース、なし狩・たけのこ掘り・柿狩りなど市の特産物に恵まれた農業から田園コース、つくし・すみれなど四季の植物に親しみながら魚つり、茶摘みなどを楽しむ木津川左岸堤コースなどを設置するものです。コースにはすべて道標を設けるとともに、主な場所には案内板を設置します。

ジョッキングやハイキングコースを設定

市民の健康の保持増進をはかるうえでスポーツの普及はさまざまな意味があります。新年度では、市内各所にジョッキング（競走）コースやハイキングコース・サイクリングコースなどを設定する予定です。

また市民の憩いの場としてスイミングプールは、プールサイドに入浴場が併設されています。

松花堂管理運営に

一千四百六十万円

昨年十月にオープンした史跡松花堂の管理運営費に一千四百六十万円を計上しました。

文化財や史跡の保護については石清水八幡宮や神社寺、幅地泥炭地、飛行神社など、市内の二十カ所の文化財に説明板を設置するとともに、金島の文化財を調査し資料を作ります。

橋本地区において公民館講座を開始

八幡市民センター、男山食堂有線放送センターで実施しています。

センターで実施しているこの公民館講座、新年度から橋本地区（四区公会堂）でも開設します。講座種目は、囲碁、将棋、茶道の三種です。

クリーンシティー作戦

延3000人でゴミを一掃

市内の清潔を図るためなどからゴミを一掃し、ゴミ汚物のない美しい"市"とするための美化運動として、市内の農業・商業・振興計画を策定します。

農業・商業振興計画を策定

現況を分析し方向を策定

市の農業と商業の進むべき具体的な方途を明らかにするために、現況の調査・分析を行い、農業振興計画と商業振興計画をそれぞれ策定します。

水稲災害の補償額を二百二十円に

水稲災害を補償する農業共済事業の推進に対する市独自の助成を一㌃あたり金二百円から二百二十円に引き上げました。これにより㌃あたりの補償限度額は、六万六千百百円になります。

減反に助成金や麦に補償制度を

国の減反対策・水田利用再編対策による農家の収入減を少しでもおぎなうため、臨機の対策として麦作振作に対し十㌃あたり一万円を助成するとともに、五十三年度播の麦種子（秋播）と大豆種子の代金を全額補助します。

また、水稲災害補償と同様の麦災害補償制度を設けました。掛金は一㌃あたり百五十九円で市が全額補助します。十㌃あたりの補償は小麦の場合二万二千円になります。

圃場整備事業の推進

用・排水路を分離し

そうけ農業の基盤を整備する圃場整備に着手するため、その調査と地形図を作成します。事業費は今百八万六千円です。

用水施設の整備については、岩田水機場の引き続き整備と五十三年度で完成するとともに、内黒水路を整備し、宰十地に揚水機を設置します。事業費は合わせて一千七百八万九千円です。

また大池ピニールハウス設防改を継続します。助成額は設置の二割で三万円が限度です。なお四区農家共有組合の振興荒廃地開発にも助成します。

小企業融資の利率

五・四㌫に引下げ

不況に苦しむ小企業を守るため小企業融資利率を七・四㌫から六・八㌫に引き下げられました。これに、市が一・四㌫の利子補給を引き続き行うため、借り手の利子負担は五・四㌫になります。

また、中小企業に対する融資枠の拡大をはかるため、信用保証協会に三百七万四千円を出資します。

これらの中小企業金融対策費や商工会等に対する助成などを合わせて、商工振興費の予算は、昨年度よりも六百一六万円増の二千二百四万六千円となっています。

市民センター計画と地区計画を作成

新庁舎（八幡東西）の周側に中央市民センターを建設するため整備基本計画を作成します。各地区市民センターの整備計画と現庁舎跡敷地利用計画も作成します。

また、基本構想を具体化するため、地区別の将来計画を策定する。

ビデオTVにより多角的な広報活動

ビデオコーダーシステムを導入して、広報活動の多角化をめざします。

ビデオコーダーを用いて「ビデオ新聞」を放映するのは市の自治体では初めての試みです。このビデオ広報は市の行事や特産などを録画して市役所（新庁舎）の窓口待合所テレビで放映し、行事に参加できなかった人にもその内容を知ってもらうとともに、行政相談に持ちこまれた情報・要望の現場を撮影し、それを見ながら各課の担当者が対策をすばやく講じるのにも役立ます。

市誌を発行

"まち"の歴史を綴る

現代、執筆を進めている「八幡市誌」を発行します。

基本構想をもとに

計画的に"まち"づくりを推進

市民センター計画と地区計画を作成します。利行ヶ原に、市民の方々と講人の中に込みをいただきます。

公共施設などに植樹し緑化を推進

木々や四季の花々は、私たちの日常生活に欠かすことのできない要素です。また道路や空地などの緑化は、清潔で快適な暮らしにつながります。

八幡市を"緑ゆたかなまち"にするため、緑化推進費を大幅に増額し、五百一十九万三千円を計上しました。公共の施設や空地に植樹を進めるとともに、街路樹保護のため害虫防除を行います。

公害防止に振動計

公害防止に振動計

今年三月一日から施行した「振動規制法」にもとづき、市指定区域（工業専用地域を除く）内の振動を規制し、公害のない住みよい生活環境を保全するために、振動計を導入し、振動設備を持つ施設の調査を実施します。

将来に備えて基金に積立て

将来にわたって健全な財政を堅持するために、一般財政調整基金に積立てを行う予定です。

財源の確保に努力

補正でより充実を

五十三年度では、苦しい地方財政事情のなかで、八幡市基本構想に盛りこまれた"めざかる福祉の都市"建設をはかるため、国に三百二十万円、市に三百八十四万二千円をそれぞれ補正することにしています。

市債の額は六億四千五百八十

市債の額は六億四千五百八十万円で、うち民生関係の工事費は二億三千八百九十六万円、土木関係の五億一千六百二十万円、教育関係の三億八千七百十二万六千円などが主なものです。

国庫支出金の額は十六億六千二十万四千円で、うち民生関係の国庫支出金の額は十億六千二十万四千円、土木関係の五億一千六百二十万円、教育関係の三億八千七百十二万六千円などが主なものです。

地方交付税の額は十億三千五百万円で、歳入総額の二十二・七㌫を占めており、昨年当初すると四億三千六百万円と比較します。

地方交付税は、一応の行政水準を維持するための税収が歳入の場合に、それを補うものとして交付されるものです。五十三年度の交付税の額は、前年度の税の不足額に応じて市町村に交付される額は、五十三年度の全国の総額は三兆四百億円、その増加額は三・四㌫です。

市税

市税の総額は二十一億二千百六十五万五千円で、うち市民税は六十六万五千円、固定資産税は七億七千九百万円、軽自動車税は七千万円、特別土地保有税は二億四千六百万円、都市計画税は一億三千百万円、その他たばこ消費税・電気・ガス税、特別土地保有税、都市計画税が主なものです。市税は、歳入総額の二十七・八㌫を占めて初り、対前年比九・八㌫の伸び率となっています。この伸びは人口増加に伴うものだがその主な内容となっています。国の税制改正や市の独自税収にもものは、次のとおりです。

減免措置の充実図る

都市計画税率は据置

市民税については、市町村移行に伴い、個人の市民税の均等割の税率七百円を、法で定められた税率（二千二百円）に引上げたことにより、七百六十二万六千円の増収となっています。また、反面市税負担の減免措置の充実として、所得額が低い方の市民税を、その実態に応じて三千㌫から百㌫の範囲内で減免することにしました。

都市計画税については、国の税制の改正により、制限税率が現行百分の〇・二から百分の〇・三に引上げられましたが、市三年度では改定しないことにしました。これによる減収額は約四千六百万円になります。

軽自動車税については、市独自の減免措置として、これまで公共の用に供する軽自動車等を法律では国税三税（所得税・法人税・酒税）の三税を地方交付税として配分すると定められていますが、不況で国税が少ない兆五千百億円の国税のうち、一兆五千百億円を国が借入れて不足額を穴埋めする結果となりました。

この借入額の半額は、将来地方財政が当然配分をうけるべき交付税の額から差引いて返済せねばならないことになっています。今後の地方財政に問題を残しています。

国庫支出金

国庫支出金の額は十六億六千二十万四千円で、うち民生関係の国庫支出金の額は十億六千二十万四千円、土木関係の五億一千六百二十万円、教育関係の三億八千七百十二万六千円などが主なものです。

民生関係の国庫支出金は、歳入総額の二・七㌫を占めており、八年度の伸び率は三七・七㌫、四億五千四百三十五万二千円の増額となっています。

市債

市債の額は六億四千五百八十万円で、歳入全体の八・五㌫を占めています。

地方財政の不足から、全国で債の占める割合が増えているなかで、本市の市債が二億三千万円減少したこと、将来の財政を考えてできるだけ借入れを抑制する方針としたためです。

公共事業の促進で、地方債の一部を含めて、全国的に地方債の割合が増えているなかで、本市の市債が二億三千万円減少したこと、将来の財政を考えてできるだけ借入れを抑制する方針としたためです。

主要な歳入予算一覧表

費目	金額	対前年増減率
市税		
市民税	1,145,367千円	28.9%
固定資産税	579,800	14.3
軽自動車税	12,995	3.6
特別土地保有税	86,290	▲16.2
都市計画税	92,704	12.6
その他	204,509	15.2
小計	2,121,665	19.8
地方交付税	1,735,000	33.9
国庫支出金	1,660,294	37.7
市債	645,800	▲20.4
その他	1,478,725	▲23.6
歳入合計	7,641,484	8.9

53年度の歳入（一般会計）

主要財源をさぐる

市税の減免措置の範囲を拡大

国の地方財政措置は、昭和五十三年度も、不況と混乱の続くなか社会経済情勢を反映して厳しい内容のものとなっています。

一方、地方公共団体では、国家予算の動向を背景として、予算編成に取り組みましたが、その実態は決して楽なものではなく、本市も例外ではありません。市税や地方交付税、国庫支出金など、財源の主な歳要は、次のとおりです。

市税

市税の総額は二十一億二千百六十五万五千円で、うち市民税は六十六万五千円、固定資産税は七億七千九百万円、軽自動車税は七千万円、その他たばこ消費税・電気・ガス税、特別土地保有税、都市計画税が主なものです。市税は、歳入総額の二十七・八㌫を占めて初り、対前年比九・八㌫の伸び率となっています。この伸びは人口増加に伴うものだがその主な内容となっています。国の税制改正や市の独自税収にもものは、次のとおりです。

減免措置の充実図る

都市計画税率は据置

市民税については、市町村移行に伴い、個人の市民税の均等割の税率七百円を、法で定められた税率（二千二百円）に引上げたことにより、七百六十二万六千円の増収となっています。また、反面市税負担の減免措置の充実として、所得額が低い方の市民税を、その実態に応じて三千㌫から百㌫の範囲内で減免することにしました。

都市計画税については、国の税制の改正により、制限税率が現行百分の〇・二から百分の〇・三に引上げられましたが、市三年度では改定しないことにしました。これによる減収額は約四千六百万円になります。

軽自動車税については、市独自の減免措置として、これまで公共の用に供する軽自動車等を法律では国税三税（所得税・法人税・酒税）の三税を地方交付税として配分すると定められていますが、不況で国税が少ない兆五千百億円の国税のうち、一兆五千百億円を国が借入れて不足額を穴埋めする結果となりました。

この借入額の半額は、将来地方財政が当然配分をうけるべき交付税の額から差引いて返済せねばならないことになっています。今後の地方財政に問題を残しています。

国庫支出金

国庫支出金の額は十六億六千二十万四千円で、うち民生関係の国庫支出金の額は十億六千二十万四千円、土木関係の五億一千六百二十万円、教育関係の三億八千七百十二万六千円などが主なものです。

民生関係の国庫支出金は、歳入総額の二・七㌫を占めており、八年度の伸び率は三七・七㌫、四億五千四百三十五万二千円の増額となっています。

市債

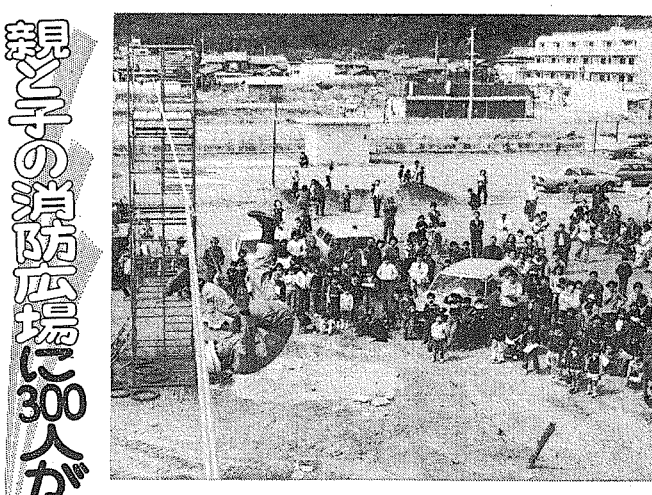
市債の額は六億四千五百八十万円で、歳入全体の八・五㌫を占めています。

地方財政の不足から、全国で債の占める割合が増えているなかで、本市の市債が二億三千万円減少したこと、将来の財政を考えてできるだけ借入れを抑制する方針としたためです。

公共事業の促進で、地方債の一部を含めて、全国的に地方債の割合が増えているなかで、本市の市債が二億三千万円減少したこと、将来の財政を考えてできるだけ借入れを抑制する方針としたためです。

大型ビニールハウスの設置に助成

親と子の消防広場に300人が参加



陽ざしも暖かくなりはじめた3月19日、八幡市消防本部主催の「親と子の消防広場」が開催されました。〝楽しみながら家族ぐるみで防火に感心を持ってもらおう〟と実施したこの催しては、マンガ映画や写生・写真大会、仮設の建物を使っての燃焼実験、レインジャー訓練の公開などが行われ、約300人の親子づれでにぎわいました。

52年度 1,300人が受診

住民健康相談の結果がまとまる

市民の一月と七月に市内の各地区で実施され、昭和五十一年度住民健康相談の結果がまとまりました。

住民健康相談は、各区の公会堂などで一堂に会し、血圧測定、尿検査、血液検査（食前検査）を行うとともに、日常の健康相談に応じているものです。

市民の健康を守ることは行政の大切な仕事の一つですが、目指生活に対する健康管理は市民各自の努力なしには不可能です。

ここでは、住民健康相談の結果を通じて、どのように私たちの健康を守っていけばよいかについてちょっぷ考えましょう。

年々増加している受診者数

五十一年度ここの住民健康相談に参加した人は三千四百八十人で、五十一年度の九倍七千五人に比べて三百五十人の増加となり、市民の健康に対する意識の向上を示しているものと思われます。

来所者のうち、女性が九〇%以上を占め、年齢別では三十歳代と五十歳代、全体の半数以上を占めています。

この年齢層の婦人の中には、同じ、腰痛、目まいなどの不定愁訴にわれる自覚症状を持つ人が多くみられました。

全体の四分の一が貧血症状

今回の相談で、貧血症状の疑いのある人は全体で一七・五%、昭和四十六年の全国成人病死亡調査による統計の三・一倍に比較すると低いとされていますが、年齢別、地域別にみた場合、この値を上まわる所も多く、要観察とされる人が多くみられました。

血液検査は、主に貧血の有無を調べたのですが、貧血の疑いのある人が全体の四分の一近くも発見されました。

原因には、やはり貧血原因のある人が多く、次で、冬期は八月と比べ、冬期は八月と比べ、冬期は八月と比べ